

総合学習 国際理解と平和の教育について(第6報)

「人について」 ～中学3年生での授業実践報告～

中村明彦・徳井輝雄
高比良幸治※・鈴木一悠

「覚える授業」から「考える授業」へ ～総合学習「人について」を終えて～

徳井輝雄

【抄録】 中学3年生を対象にして行なった総合学習「人について」は、生徒の主体的学習の姿勢や修学旅行への主体的参加姿勢を引き出すことに成功した。これはこの授業が、教科の枠を超え、学校行事との有機的結合を意図して総合的に展開され、かつ生徒の自学自習を促すことに注意して行われたからである。

【キーワード】 総合学習、修学旅行、卒業論文、考える授業

1 はじめに

本校では、1993年度より、中学三年生を対象として、週1時間の総合学習形式の授業を設けている。この授業のねらいは、教科の指導と行事(修学旅行)の指導の有機的結合によって教育効果を上げるとともに、教科の枠にとらわれない総合的な思考を促す事にある。この小論では、2年目にあたる1994年度での試みを報告する。

2 テーマ「人について」の意義

1994年度は、総合学習のテーマを「人について」とした。これは中学3年を受け持つ4人の担任団^{※※}の合意によって決められた。具体的には、本校の「平和教育・国際理解教育」という学校目標に沿うべく、主に環境、人権、平和などの観点から「人について」学ぶ事とした。この様なテーマの現代的意義はいろいろ考えられるが、もっとも重要な点は、教科学習の或は学校教育の人間化にある。

詰め込み式教育は、教科至上主義教育や管理至上主義教育とあいまって学校生活を殺伐とした非人間的状

況にしている。これがいじめや自殺事件の直接・間接の原因となっている。詰め込み式教育では、教育本来の目的である「世界の平和と人類の福祉」に関する事は忘れ去られ、僅か社会科のみで教えられ、しかも、単なる試験対策用知識として教えられることが多い。生徒のいじめ・自殺問題への根本的対策は、この教育基本法が掲げる教育本来の目標を、学校教育全体の中で日々追求することの中にある。したがって、教科指導と学校行事の指導を、「人について」をキーワードとして有機的に結び付け、総合学習形式で行うことの意義は大きい。

「ひと」について学ぶことと「総合的」に学ぶことは、原爆をはじめとする核兵器やサリンをはじめとする毒ガス兵器などを、「世界の平和と人類の福祉」との関係を充分総合的に検討せずに、ただ命令されるままに或は興味本位や喰うために作るような科学技術者等の発生を防ぐ教育面での一つの手だてでもある。

本校では、1986年4月より高校3年を対象に選択科目として総合学習をおこなってきた。テーマは「生命について」である。これは、1995年度の現在も続いている。(本校紀要第38、39集参照) また、前述のよう

※愛知県立知立高校(1995.4より)

※※担任団 中村 明彦(体育) 徳井 輝雄(技術・数学) 高比良幸治(英語) 鈴木 一悠(理科)

に1993年度から中学3年生全員を対象に総合学習が始まった。初年度の1993年には国際理解と平和の教育という学校目標に従って「生命の尊厳」を中心テーマとして授業を行っている。(本校研究紀要第39集参照)

これらの動きは、1995年度には全校に受け入れら

れ、各学年とも、週1時間の割合で「総合人間科」の時間が設けられるに至った。従って、本校では今後、学校を挙げて、教育活動の中で意識的に「人間」にかかわっていくことになる。

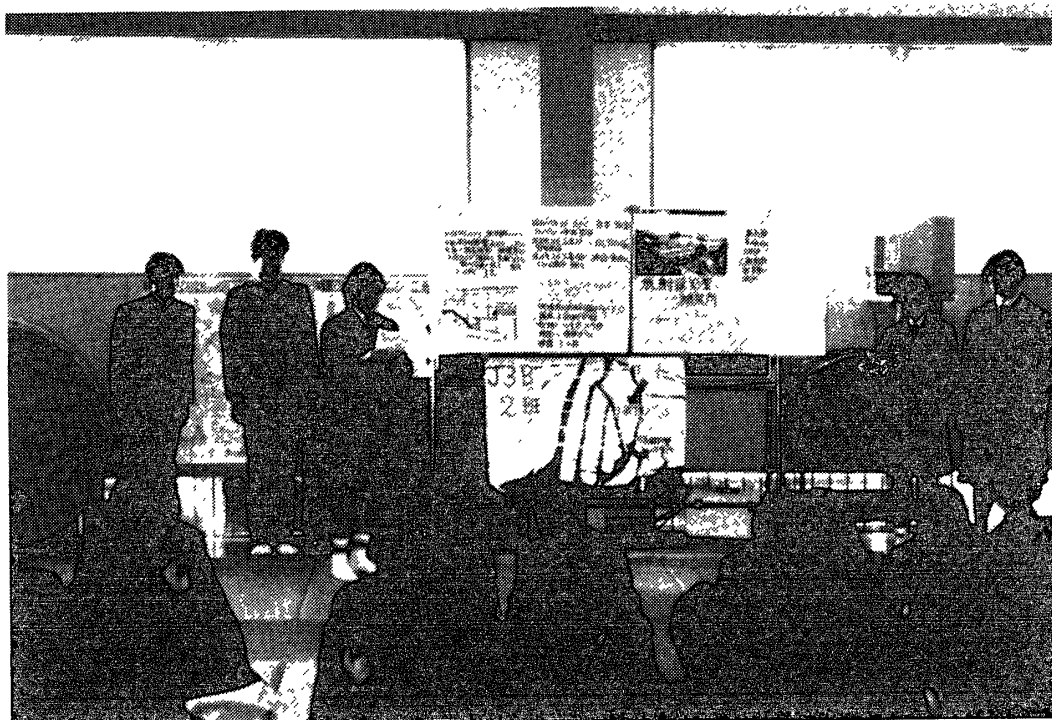


写真1 修学旅行報告会

3 1年間の授業の流れと生徒への働きかけ

一学期は、担任団4人による講義で人についてのさまざまな観点を示した。実際には前述の如く、環境、人権、平和の観点を中心とした。

二学期は、広島修学旅行を中心に据え、グループによる事前事後学習と其の成果の発表をさせた。主に、原爆や戦争で人はどのような状態に置かれるかを学んだ。学んだ結果を報告集にした。

三学期は、広島修学旅行での調査・研究結果の報告集会を2年生を交えて行った。さらに、此の一年間の、さらには中学3年間の学習のまとめとして卒業論文を書かせた。

以下やや詳しく学期ごとに見ていこう。なお、本校では、この授業の名称はとりあえず、教育課程上の位置付けをあらわすべく、「選択の授業」と称していたが、1995年度から総合人間科と適正に改められた。

(3-1) 一学期

4月の最初の授業で生徒に示した文書を資料1に示す。教科の枠にとらわれず、総合的な自学自習を中心に授業が行われること。修学旅行の事前準備・旅行そ

のもの・事後学習もこの授業の一環として行われることを説明する。また、テーマを「人について」とした理由については、人間についていろいろな面から総合的に考えて欲しいからだとした。自学自習を主体とすると言っても、生徒には戸惑いがあるだろうと予想した。そこで総合的な学習の例をまず教師が最初に示す事になり担任団4人による授業を資料2に示す如く行った。この内、体育教師の中村先生による「エイズとともに生きる」その一・その二^{*}及び物理の鈴木先生による「生物の宇宙における位置、ヒトの生物における位置」その一・その二・その三^{**}の内容については本紀要の別稿を参照されたい。また英語の高比良先生による「人種差別」～先住民アイヌについて～及び～アメリカインディアンについて～の授業概要は資料7を参照されたい。

この一連の授業については、最初から生徒が各自テーマをみつけ、それに基づいて、自学自習を主体にした授業にして欲しいとか、テーマ選択の自由が無かった等という意見が、一部の生徒から3学期のアンケート調査の際に出された。しかし大部分の生徒は、一斉授業、グループ学習、個人単位の学習と言う流れに

※本紀要28ページ参照、**本紀要22ページ参照

賛成している。一学期の、4人の担任団からの講義は、英語の先生が民族問題を取り上げたり、体育の先生がエイズ問題を取り上げたことで、先生も勉強している！という良い印象を生徒に与えている。

(3-2) 二学期

2学期は資料3に示す如く、広島への修学旅行の事前学習と事後学習及びそれらの報告集作りに費やされた。この修学旅行では、生徒に対して次のような目的を示した。

「平和と国際理解の教育の一環としてこの修学旅行を行います。広島・大久野島を訪れ、かつての日本の戦争被害と加害の実態を、戦争遺跡の見学や当時の体験者からの証言を聞くなどして、なるべく具体的に学んで下さい。この事を通じて、戦争の悲惨さとおろかさを学びとり、あわせてグループ学習や自主的な調査研究の体験が出来れば目的を達成できたといえます。」

広島では、次のようなテーマを、生徒達は自主的に設定してフィールドワークをした。

放射能による被害

原爆の爪痕

呉の軍事施設 いまと昔

広島文化を探る

広島復興の歴史

原爆・人・被害

現代における戦争の影響

広島にかかわった偉人

広島城と城下町の歴史

8月6日を知る

ひとつのクラスは、9月に行われた文化祭の演劇コンクールにおいて「夏雲」を上演した。これは広島の修学旅行の、まさに総合的な事前学習となった。

事後学習は、研究集録作りを通じて行われた。研究集録編集委員会が組織され、選ばれたり立候補した委員によって会は運営され、見事な研究集録が作られた。

(3-3) 三学期

● 生徒に示した予定表は資料4の如くである。卒論を書くための注意として次の文書を配布した。

1995.1.31. 中3 選択授業資料

卒業論文をまとめるにあたって

1 テーマの選び方

人に関わることなら何でも良い。今まで学んだ事でも、全く新しい事でも良い。

2 調査研究の仕方

自分の選んだテーマについて、歴史的に見る。他と比較してみる。実際に調査してみる。友達と討論してみる。参考文献を調べる。分かったことをノートして

いく。

3 論文のまとめ方

皆さんに、もっとも伝えたいことは何かを決める。それを短い文にしておく。効果的に伝える為の順序を決め、それにもとづいて論文の目次を決める。目次にしたがって、2で作ったノートを参考にして書き始める。調査研究が足りない所を補っていく。

4 論文の形式

図表を効果的に使う。まとめ(あらまし)をつける。参考にした文献を下の様に一覧表にする。

著者 文献名 発行所 発行年

夏目漱石 三四郎 春陽堂 1909年

生徒が選んだ卒論のテーマは資料5の如し。これを見ると、自分の言葉で書いたものが多く、後述のごとく予期以上に熱心に取り組んだと言える。

4 評価方法

(1 学期)

生徒の一人ひとりに、選択授業用のノートをわたし1時間ごとの感想を書かせているので、その文字量によってA、Bの評定を付けた。今後の検討が必要。

(2 学期)

広島修学旅行の事前事後学習やグループ学習での活躍のようすなどを参考にして、担任が中心となって総合判定した。

(3 学期)

卒論を担当団4人が分担して読み、評定をきめた。どの学期も、A、B、C、の3段階とし、とくに怠けていたもの以外はCを付けなかった。

5 生徒の反応

(5-1) 1年を振り返った感想文より

まずは生徒の感想文を示そう。この感想文は、1995年3月18日頃の卒業直前に書かれたものである。

なお()内の表題は筆者が付けたものである。

A君 (将来の目標を掴む)

僕はこの一年の選択学習で人について学んだ。そして博愛精神だとか、人類愛とか言った言葉を一言も聞くことなく人間一人一人の命の重みとすばらしさを知った。時に人類のおろかさを知り、またその望みを知り、自分の進路も考えていた。その中でいま僕は歴史家になりたいと思っている。古きを尋ね新しきを知るという言葉の重要性をこの授業の中で知ったからだ。

(後略)

Bさん (人生の意味を知る)

私達は人としてこの授業でいろいろなことを知る事ができました。(中略)

私達は何の為にこの世に生命を持ち生まれてきたのだろうか?ふと思ったことがあります。疑問に思うひともいれば、さほど深く考えずたた一日一日を過ごす人もいます。

私は考えてみました。何故自分がこの世にこうして生きているのかを、私が考えた推理ですが、私達がこの世に生まれてきたのは、この世に生まれてなにかに向かって生きるためではないでしょうか。なんとなくだけとそう思います。(中略)

地球という惑星に生まれれば皆仲間である。人間という動物だけでなく、他の動物もそして植物も、大気も皆私達の体の一部であると思う。仲間の一部や体の一部を失うことは、私達にとって危ないことである。私達は自分の事だけでなく他の体の一部の事も細かくチェックしておたがいに生かしあっていかねば成らないのではないかということをこの授業で学びました。

Cさん (死について考えたい)

・・・(前略)・・・死ぬことについてとか、私達がかんがはず体験する事を学んでみたいです。とても勉強になるし面白いと思うんですけどどうでしょうか?私は身近にいた人が亡くなったことがありました。けと小さい頃だったので夢のような出来事で全然実感がわきませんでした。いま、考えると随分ひどいこともしました。自分と死が全然かけ離れているもののように考えていたんだと思います。前向きな話題だとは決して言わないけど、こう言うことを学ぶことはある意味ではすごく勇気のいることだと思います。いつかは自分が死ぬんだと言うことを認めなければいけないのですから。ですから生きていることも当たり前だと死ぬことも当たり前だということを学びたいと思います。

Dさん (全体の感想と今後への提言)

授業を振り返ってみると一学期は先生の授業を聞き、二学期はグループ学習をし、三学期は個人学習をしました。

(一学期の)授業は私にとって興味のあるものからないものまで色々ありました。これは人それぞれだから違うと思うけれど、私はエイズについてが一番興味がありました。これからはもっとエイズについて重要視されていくとおもいます。

グループ学習は、主に修学旅行について学んだのですが、毒カスのことや、原爆の事について学んでいくうちに、だんたん今の世の中に生まれてきて良かったと思うようになりました。このグループ学習と言うの

は、授業よりずっと自分で考えることが出来、しかも、自分で資料を探し、読み、身になったと思います。普段からこの様な授業をすればいいのになあと思いました。(実際にそれが実現したら、きっと授業が単なる遊びの時間に生まれ変わるでしょう)

三学期になり、今まで学んできたことをもとに、個人個人で学習しました。これは主に卒業論文を書くことが目的でしたが、私はこれはみんなにとって一番学習になったことと思います。みんなそれぞれ違う事について、資料を集め、読み、学習出来ました。みんなが違うことについて書いたところが良かったと思います。自分一人の力でやって行くところが為になった一つの要因だと思います。私は、死について書いたのですが、資料を探すことはせず、自分の考えをずっと書きつけました。・・・(中略)・・・

この授業というのは、これからは、自分がいま一番興味をもっている事について自分で資料を探し、学習し、この学んだ事をみんなに伝え、それについて質問や意見を出し、ということをして、三学期になったら、また、論文を書いて今度こそ完ぺきな物にすれば良いと思います。たぶんこれが一番自分にとって学習になることでしょう。

Eさん (修学旅行の印象 その1)

この一年間人について学んだ中で印象に残っていることは、「目でみて知る」と言うことを果たせた修学旅行です。平和公園には数多くの慰霊碑があり、戦争で命を失った人達の悲しみや叫びが聞こえてくるようでした。

語りべの会では、原爆投下の直後の都市の様子を知り、恐ろしさと共に怒りを感じました。フィールドワークでは、袋町小学校と放射能影響研究所を訪れ小学校に通う元気な子供の命、先生達の命が奪われたこと、放射能が人体にどれだけ影響を及ぼすのかということなどを学び、戦争の中身をより深く知ったと思います。

高校では沖縄へ行き、また色々学ぶことがあるとおもいますが、しっかりと心に残して、戦争の恐ろしさを忘れないようにしていきたいです。

Nさん (修学旅行の印象 その2)

・・・私としては研究旅行が一番印象に残っています。グループで計画し、そして実行することは、大変困難なことです。しかし、グループだからこそできたこともたくさんあります。

Fさん (卒論について)

(前略)・・・(卒論は)音楽をテーマに書いてい

きましたが、人間との深い関わりを知るごとに授業で習ったいろいろなことが思い出されました。そして書きたいという事が次々として出てきて言葉にすることがとても大変でした。無事書き終えて本当に嬉しいです。この授業で一番のテーマになっている「人」について考えることはとても難しいし、その範囲も非常に広くて簡単に出来ることではないと思いますが、これから私達が生活して行くなかで大切なことなのでしっかり考えられるようになると良いと思っています。最後に、この一年で学んだことは、これからの高校生活に生かして行きたいと思っています。

G君 (人について学んだ事)

「人」ということでは、一学期に行なった授業が一番為になりました。

「エイズ」による、同じ民族、同じ人種どうしの差別がある事を知り、「民族問題」により、言語、住居、肌の色等によってかなりひどいことが起こっている事を知り、「原子力」により、人の作ったものは必ずしもいいものばかりではないことを知り、そして、「宇宙」で、人間の宇宙への憧れ、他の生物を探す意欲を知りました。この四つを合わせると人間という生物がどの様な歴史を辿ってきて、どのようなことを行ってきたかが大体分かります。

三学期の論文では、「学ぶ」と言うことよりも、「達成感」を教えられました。今考えても、「自分一人で良く10頁書くことができたな」という嬉しさと驚きがあります。

一学期、二学期、三学期の授業全てを終らせてかなりのことを学べたような気がします。僕は、これからも「ひと」について疑問が出来たら、この授業でやってきたように解決していきたいと思っています。

Hさん (考える授業だった事を表す感想といえる)

・・・(前略)・・・エイズ患者にたいする差別がなぜ起こるのか。差別は人を殺す。心をたやすく破壊する。だが良くないことだとわかっている、人間は弱くて馬鹿な生き物だから、普通に接することなど不可能に近いのではないだろうか。もし私がそう言う立場に立たされたとき、本当に差別せずに接することなどできようか。血のつながりの濃いもの相手ならまだしも、見ず知らずの他人であったら。私には勇気など無い。きっと差別してその人を傷つけてしまうだろう。だから人は目を反らす。見たくないものは見ず、自分に迫る危険からのがれようとする。そしてそこからまた差別が始まってくるのだろう。差別とはそういうものではないか。

人間は誰でも自分が一番大切で、それははるか昔か

らある人間の為に残されていく呪縛だと思う。きっと人間はこれに縛られて生き続けるのだろう。それが人間を考えることであり、人間として存在するための一種の掟だろうから、私たちは差別という言語を消し去る事ができずにいるのだろう。(後略)

I君 (学習形態の違いについての感想)

・・・(授業が)全体からグループ、グループから個人になっていくにつれてだんだん(この授業の)意味がわかっていくように成った。全体の時は先生が調べてきてくれてそれを僕達が写したり感想を書いたりするだけであまり難しいとは思わなかったけれど、グループになるとグループのみんなまで調べなくては行けないし、自分にも役割が回ってきて調べたり、書いたりしなければならなかった。けれど、先生が調べてきてただそれを僕達が聞くだけの時よりも自分達で調べたり書いたりするほうがずっと楽しいと思う。(後略)

T君 (人のあり方を考える授業であった)

・・・(前略)・・・人の個性などが忘れられ、広い視野で物を見、自分の考えを育てていくことが困難な現在の日本の教育課程において人のあり方を考えさせる時間は「息抜き」とはいい過ぎだが、発想の転換を促し、人に対する考えを持つことによって「自分を見つめ直すことになりそれによって学習や社会に出てからの生活に影響を及ぼすだろう。

人について調べた別のことでよいが、ペーパーテストでは点の付けることが出来ない教科が存在することによって人の実行力その他を向上させることが出来るであろう。更に、今現在問題である学歴社会を破壊もしくは矯正する一歩となることが可能ではないか。

J君 (総合的に見る態度が身に着いたことを表す感想)

僕は民族問題についてとても印象に残りました。僕は卒業論文のテーマに人と戦争の関係を選びました。このテーマと民族については切っても切れない関係があると思うのです。

戦争はよく異民族同士にわかれて行われます。国家間のいざこざでも、民族の対立だと思います。中国の歴史を見れば漢民族やら満洲民族やらモンゴル民族やらでできます。清は満洲民族の国だから漢民族と戦いました。世界中のあちらこちらをみても民族間の争いは絶えていません。

一学期に(遠足で)行ったリトルワールドもとても印象に残っています。世界各地の生活様式がよくみられたからです。アイヌの家や遊牧民の包など面白いも

のが沢山ありました。とれをみても僕の関心をひきました。

僕の考えでいくと、異民族だから侵略するなんていうことは思いつきません。世界は広いのだからいろいろな人々がいるのは当然だし、また、協力しあわなければならないと思います。そのためにもいろいろな国の文化を理解しなければいけないと思います。

もし高校になってもこの授業があるなら、人間を歴史的に見ていけばいいと思います。そうすれば、いまの僕達の生活は、とんな過去があって出来てきたのかわかると思うからです。人について学ぶのは大変だけれど重要なことだと思います。

J君は、物事を見る一つの方法として歴史的に見ることを学びとりました。また、総合学習の時間でまなんだ民族の問題を、遠足という行事の場面でも思い出し特別な関心を示しています。

K君 (この授業は、一部の生徒に絶望感を植え付けたか?と心配させる感想)

・・・(前略)・・・環境問題にはなぜか前から興味があった。二枚の論文を書いて、環境問題も資源問題も解決は無理だと思った。(中略)世界中の人々が本気で取り組めばいい、とはいっても現代の社会では環境対策よりも、利益さえあればいいという感じなので簡単には出来ないと思う。アジアなどでは工業化が進んでいくが、うとうしい事だと思う。アジアは農業さえやっていたらいいと思う。このまま工業国が増えていって、日本人のような生活をはじめたら最悪だと思う。環境問題や資源問題はますますひどくなっている。いまでさえ手遅れの状態なのにこれ以上ひどくなって助かるわけがない。幸い、僕は世界がやばくなっている頃には既に死んでいると思うので、子孫さえ残さなければ、自分は案外幸せな人生を送る事が出来ると思う。

Lさん (卒論に取り組む姿勢について)

“ヒト”という大きなテーマに基づいて授業に一年間取り組んできて、感想を一言で述べなければならなかったら“色々発見できて良かった”というと思う。一年を通して先方から知識を得る授業を受けること。自分達の足で知識を得る。そして自分の力で調べ上げていく。こういった授業がない限り滅多に出来ないことだと思う。

テーマが“ヒトについて”ということで最初は「人間である私達が“人”を勉強するのは簡単そうであるのに、何をすればいいのだろうか」ととまどっていた。いま思えば、そう思うことが“ヒト”とは難しいもの

だと分かる最初の段階だったのだろう。

平和、人権、環境という三つの観点から探ったのだが、どれも今を生きる私達にとってすごく大切なことだと思う。現在、“エイズ”が問題になっており人権が大切になってくると思う。それぞれの問題がつながっている。

修学旅行に行ったグループ学習では貴重な体験をしたと心から思う。ここでは戦争を二度としてはいけないという気持ちが強く固まった。そして平和への願いを改めて知った。

そして何よりもよかったと思うのが最後の課題である卒業論文。題を何にしてよいか迷った。ニュースからのヒントで題を“アウツシュビッツ”にした。論文を仕上げた今でも、選択を間違えたとは思っていない。それどころか、みんなに伝えたい知って欲しいという気持ちがわき起こる一方だった。

今回の授業は、中学三年生に最もふさわしいものだったと感じる。それは私が感じるだけのものかも知れない。一つひとつ知識が増し一つひとつ感情が現れて、最後をしめくくるのに“ピッタリ”だと思う。初めよりもその次、その次よりもその後、深く研究して行くにつれて、自分がのめり込むような授業を受けて、本当に良かった。

Mさん (勉学の意味を知る)

・・・(前略)・・・一年間のこの授業で色々学び、二つの大切な事を知りました。「現実を知ること」「思いやりの心を持つこと」です。この二つの事を自分で行うのに必要なことをいま各教科で学んでいるのたと思いました。自分の為の勉強、世界を知るための勉強。その手助けをする授業。「学校」と言う場所はすごくよい空間たと思いました。そしてそれを生かすも殺すも自分次第だと言うことを忘れずに生きていきたいです。

Oさん (テーマ・卒論について・人に伝えること)

・・・「人について」というテーマはいくら調べても、いくら学んでも、知り尽くすということがなく。テーマとしてはハッキリハマリタものだったと思う。私自身とにかくたくさん事が知りたくて、四人の先生の授業も、修学旅行も最後の卒論も満足のいくまで取り組めたと思う。

高校でもこの様な授業を行うかどうかに付いては、私は、大賛成である。自分を取りまく世の中のあらゆる物事を一つ一つ理解していくことでもっともっと大きな人間になれるような気がする。そしてもう一つ、他の人に自分の考えや研究の結果などを分かりやすく説明することの練習がしたい。修学旅行の事前事後の

発表など、何回かそう言う機会があったが、何故かごちなくて恥しくて・・・と言う感じだったからだ、思っていたより何倍も難しかった（これもこの一年間を通して知ったことの一つ）。

今は、書き上げたばかりの卒業論文を早くみたい。中一の4月から三年間一緒に頑張ってきた仲間がどんな事に対してどんな考えを持っているのかとても楽しみだ。

自分の一年間のこの授業に対する取り組みは本当に満足のいくものだった。

● Pさん (否定的意見)

私はこの作文になにを書けばいいのか分かりません。この様に作文ばかり書かせて選択授業とは何の意味があるのでしょうか。

そりゃあ修学旅行は楽しかったですが、興味もない博物館等見て何が残ると言うのでしょうか。

私個人の意見としては意味のない授業などさっさと廃止して、自習時間にでもした方がいいと思います。

Qさん (自発的学習がなされているか? 厳しい指摘)

確かに世界について学ぶことは大切であるが、それが私達の心にとり影響しているのかの方が問題ではないだろうか。

一年間選択の授業を受けてきたものとして言わせて貰えば、それらの問題に真面目に心から取り組もうとする人は殆どいないように思える。見かけだけ、綺麗事を並べて心にもない作文を作るのが私達に取ってプラスになるとは思えない。

必ずやらなくてはならないと言う強制的なものを多量に押し付けるのは逆効果なのではないだろうかと思われる。強制的でなければ、私達は学ぼうとはしない。しかし、強制的に押し付けたとしても、私達は心からその問題に取り組むことはないであろう。あくまでもそれは自分ではなく他人事なのだ。

● 他人事であることは平和であるが、それではお互い発展することが出来ない。それでも、私達は自分だけでも平和でありたいと言うのが現実で、人間とはそんなものだ。

感想文から、大部分の生徒はこの種の授業を大歓迎している事が分かる。その理由として、リラックスする、珍しい、行動を伴う、普通の授業に比べて自由度がある、自分でテーマを選べる、などがその主な理由である。学習への意欲の高まりがみられる。その証拠として、ボランティア活動、老人ホーム訪問、授業の仕方などの今後への提案をしている。しかし少数では

あるがこの形式の授業に疑問を持つものもいる。

項目別にもう少しみてみよう。

一学期の講義に付いて、

- 先生が一生懸命だった
- 印象薄くただ疲れただけ
- もっと人間の本质に迫る哲学的授業をして欲しかった
- 興味のあるテーマとそうでないものがあった
- 人間不信になった
- もっとも気合いを入れて受けた授業だった
- 差別問題に関心が向き自分の進みたい道も分かったような気がする
- 人と人との問題を解決することが大切だと思った
- 人の大切さをまなんだ
- 授業中に感想を書かせるな、授業が聞けない。

二学期の修学旅行に付いて

- 修学旅行も授業だ
- 目でみることでできた修学旅行
- (修学旅行の報告会で)人に伝えることのむずかしさを知った
- 修学旅行がこの学習の一つの大きなテーマになっているのは良かった
- 修学旅行が一番印象に残っている。
- 知り尽くして行きたくないので、事前学習はほどほどに

三学期の卒業論文作成に付いて

- 自分でテーマをきめて原稿用紙10枚分を書く卒論が一番印象的で、この学校のテーマの柱である「平和」について軍隊の面から調べてみた
- 卒論で調べたことが(他の教科の)試験に出てうれしかった
- 卒論を書いて、自分で調べると自分の考えが生まれると言う事を知った
- 南北問題に取り組んでみて、みんなにアジアを理解した上で世界に目を向けて欲しいと思った
- 調べて発表することの意味を知った
- 身の回りに卒論の資料がいっぱいあることを知った。何度も県立図書館に行った
- 休みの日は、ご飯とトイレとお風呂以外はこの論文に全部ついやした、全部完成したときの感動は忘れられない
- 自分の書きたいことが書けてよい
- 自分一人の力でやり、苦勞したので一番印象に残っている
- 自分の好きなテーマで、じっくりとマイペースで取り組めるのでよい
- みんなに伝えたい、知って欲しい、という気持ちが沸き起こる

○最初はいやだと思っていたが自分でテーマを決めて調べてみたら意外にとんとん調べられた。全体的には○校風である「自由」を感じる事が出来た、という感想に注目したい。校則問題ではなく授業場面で「自由」を感じた生徒がいることは重要である。学校における本質的な自由とは学習の自由であると、この生徒は指摘している事に注目したい。

(5-2) 卒業論文～生徒自ら考えた例～

3学期に作られた卒業論文集「人について」は良いものが多くみられた。その目次は資料5に示してある。

卒論を書く過程で、生徒は総合的にいろいろ考えざるを得なかった。考えた結果とどのようなものが書かれたか、そのこく一部を見てみよう。

Mさんの「宗教・人・考え方」の一部
宗教を学び

宗教から人の考えを知ろうと思ったのですが、その難しいこと。宗教って本当に奥が深いものだと思改めて感じました。

私はいま、信仰している宗教というものがありません。今までもありませんでした。そして今まで宗教というものが不思議で……。何故宗教の教えをそんなにも大切にしている人がいるのでしょうか、という質問を自分にしては、「死が怖いから」と思い込んでいました。それだけの為に宗教に入っているのと。しかし勉強するうちに、そうではないと思うようになりました。(宗教を信じる人はきっと各神様を本当に

信じているのではないかと。でも、私は、それはとても危険なことではないかと思うのです。客観的にみて、どの宗教も似たところを持っていました。それなのに一つの神様だけを信じると言うのでは……。自分を見失いはしないでしょうか。(自分の行動はすべて神様の言われた通りだ。)なんて思うようになってはきっといけないんです。とはいえ、各神様の言うことは、本当に素晴らしいものが沢山あるのです。だから自分で考えてみて、きちんと考えてみて、一つの神様にこだわってもいいのではないのでしょうか。宗教のことで争いが起こることほど悲しいことは無いと思います。そんな「あやまち」繰り返してはならない。人へ類すべて、とうしたら本当に仲良くなれるのでしょうか。キリスト教、仏教、イスラム教、ヒンズー教、ユダヤ教、シーク教、この六つの宗教を学んで、本当に、世界は、平和にならなければと強く感じました。

Rさんの「自己本位主義による社会学」の最後の部分を見てみよう。

……この論文も、現在わたしが疑問に思ったこと、考えたことを現在の私の自己本位的な、つまりエゴイスト的な考え方で答えたものなので、何年後の私にこの論文を読み返す機会があったらその時にはきっと過去の自分の傲慢さを笑うことになるでしょう。「古いはばかはかしい」とか「子供は大人より頭がいい」とか「非行は演技だ」とかを他人を全く無視して言っているのだからそれ自休おかしくなって当然です。しかしその時の笑いの中に昔の自分を懐かしむ気持ちが

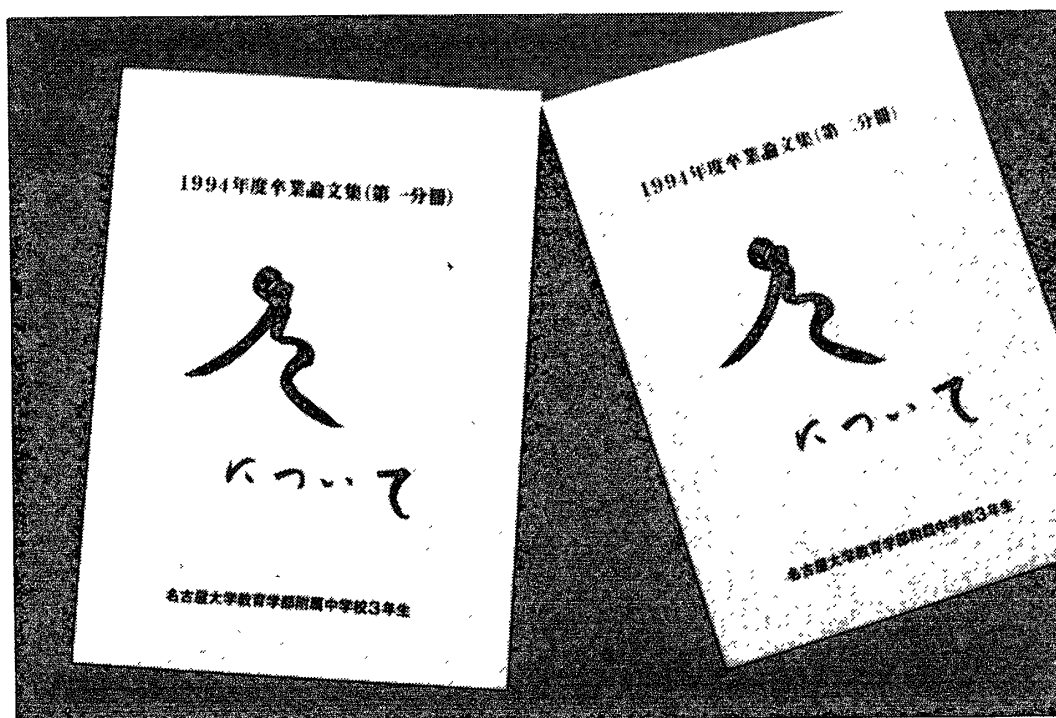


写真2 卒業論文集 その1とその2

あれば幸いです。

S君の「GENPATU」～何が真実か～についてやはり終わりの部分のみをみてみよう。

・・・火力発電所や石油化学会社にも複雑な装置はある。しかし、その事故はちょっとガスが漏れても、それですぐ大事故になるわけではない。原発は原爆と比べられるような、エネルギーと放射能がある。だからちょっとの放射能が漏れても問題にしなければならない。機械を長く使えば壊れやすくなる。また部品の数が多いほど故障が次々と起こることになる。そのときそれがすぐ対策の取れる事故なのか、大事故につながるのか。装置が複雑なだけにまだ解明されていないことが沢山残っている。つまり原子力の生み出すパワーが一番強力であるということは、原発がすばらしいエネルギー源であることを意味するのではない。現状で原発がきわめて危険であること、早く廃止すべきであることを意味しているのだと僕は思う。これからのエネルギー源は環境を破壊しない自然エネルギーに頼って行くべきだと僕は思う。そうしたエネルギーは強力なものではなく不安定である。太陽エネルギーは夜に発電できないし、曇ったり雨が降れば発電量が減り、風力発電は風がなければ使えない。しかしエネルギーの量は無限である。僕達の家で発電できるし送電という無駄な手間もかからない。現在の発電効率は低い太陽電池の効率はどんどん上がっている。将来は家庭用電源として使えるようになる事は間違いないとおもう。パワーは小さいけれど身近で自然を保護するエネルギーがもっとも有望なエネルギーだと思ふ。

稚拙ではあるが中学3年生なりに一生懸命考えようとしている姿勢が伺える。

(5-3) アンケートの結果

1995年3月18日に行ったアンケート調査の結果を資料5に示す。

アンケート実施日が、卒論提出期限の直後であったせいか、卒論に対する印象が強いようだ。積極的に取り組むことが出来たとする者が56パーセントと他の学期の活動に比べ多い。どちらかといえば積極的に取り組むことが出来たとするものを合わせると76パーセントにのぼる。

修学旅行も卒論と並んで印象的であったようだ。特に事前事後学習や下級生に対する報告会が良かったようだ。

全体的に見ると、この授業を楽しく感じていたものは、54パーセント。他の教科の授業と比べて興味が持てたとするもの、65パーセント。

長所としては、普通の授業では学べないことを学んだ、教科書や教科にとらわれない自由な学習などを挙げている。

短所としては、興味のないテーマの時は遊んでしまう、騒がしいなどを挙げている。

「人について」というテーマにたいしては、消極的な賛意を示している。

この様な授業を高校でも受けたいとするものが58パーセント、受けたくないとするもの15パーセントであった。受けたくない理由には受験勉強の邪魔とするものがある。前述のように1995年度より高校においても総合人間科の授業が始まっているが、この授業と大学入試対策との関連問題を生徒がうまく解決していくようにどう指導するかが一つの課題となる。

6 考 察

この授業の特徴は、前述のT君の感想にある様に、生徒にとって、「覚える授業から考える授業へ」の足掛かりを与えているところにある。生徒が主体的に「考える授業」こそ教科指導の重要な側面であり、創造性を養うためのキーポイントである。教科指導と修学旅行という行事の指導との有機的結合と自学自習を主体とする学習形態及び総合的に学ぶという学習内容と学習方法が、生徒に考えさせる授業の構成諸要素であることを示したといえる。一般の教科指導においても考えさせる授業は行われるべきであるが、入試を意識しての学習領域の選定とその網羅的履修のみに関心が向いている現状では、1週間に1時間ではあるが、このような形態の授業を行うことは意義深い。また、入試のみの学習の動機付けでは学習意欲が生まれにくい一部の生徒にとっては別の動機付けになり、ある程度のやる気を引き出すことがあることは、この、中学三年生での実践と共に、前述の高校3年生を対象にして9年間続いた総合学習の実践からも言えることである。

このような観点に立つならば、この種の授業の評価方法は、いかに自主的に学んだか、いかに総合的に考えたかという点に注目して、複数の教師に依って行うべきである。

授業形態について述べるならば、複数の教師のチームティ칭ングや、一斉、グループ、個人学習の適切な組合せで展開する事が望ましい。アンケート結果や感想文の分析から、此の総合学習のなかで、生徒は自分の意志で学ぶことを喜び、関心のあることを深く学んで行こうとする傾向が現れたとみて取れる。それへの過程は、一斉授業で学習のきっかけや手法を知り、グループ学習で仲間同士の協力と助け合いで自学自習に踏み出し、その次の段階で一人一人の興味関心や自由意思に従ってテーマを選定し個人学習に入って

いった。細かい注意点としては、日頃の学習に対する取り組み状況を観察して、条件があれば少し高い目標を与えることが挙げられる。

今回は生徒に討論の機会を全くと言ってよいほど与えることが出来なかった。40人単位では不可能であるからだ。一人の教師に十数人の生徒という割合を実現しなければ討論はしにくい。とくに多くの生徒が精神的に取り組んだ卒業論文を土台にしての生徒同士の討論会を組織することが出来なかったことが惜まれる。

7 おわりに

この形式の授業の特徴は、「生徒に考えさせる」ところにある。一般の教科指導では、生徒は受身で主に覚えることに精力を使う。今回報告したような、教科の枠にとらわれない、学校行事までも取り込んだ問題解決型の総合学習では、生徒は次第に主体的に成り、自らテーマを選んで、自学自習するようになる。

また此の方法により学校行事その物の充実を図ることが出来る事も指摘しておきたい。前述のように修学旅行と文化祭の演劇コンクールの有機的結合も生徒に相乗的な良い効果を与えている。演劇「夏雲」で神崎あきを演じたMさんは次のような感想を修学旅行の報告書で述べている。

フィールドワーク中も、お好み焼きを食べている時も、語り部の(話を聞いている)時も、碑めぐりの時も、常にある人が私の頭の中にいました。ある人と言うのは、今年の演劇コンクールでの私の役。「夏雲」の「神崎あき」です。

新幹線で、京都に着いたとき、「あきとはんな気持ちで、広島に向かったのだろう。この場面はなんたか劇のまま」なんて考え、勉強していくうちに原爆の事を段々知っていき、知れば知るほど原爆のこわさがわかり・・・中略・・・今回この修学旅行で広島を知ることが出来て本当に良かったです。被爆三世の「あき」の気持ちも前より少し理解できたような気がします。

背景作りなど裏方に徹したOさんも次のように書いている。

私にとって修学旅行は、事前学習に取り組み出したときでも、名古屋駅に集合したときでもなく、演劇コンクールの脚本「夏雲」を手にしたときからはじまっていた。

なにが一番良かったか。こう尋ねられたら、私は迷うことなく「原爆ドームに会えたこと」と答える。フィールドワークの途中、市電の中から原爆ドームが見えた瞬間は、ずっと忘れられないと思う。そこにあったのは演劇で舞台の正面にぶら下がっていた大道具だっ

た。あのとき私達と一緒に練習し同じ舞台に立ち、同じ感動を味わった原爆ドームだった。本物のはずなのに、なぜか「また会えた」という気がした。また同時に何か熱くこみ上げてくるものを感じ、涙が出た。

この様な総合学習の全学的実践を保障する物理的条件として①ティームティーチングを保障する為の教員数の増加と教師一人当たりの生徒定員減②小人数用の多数の教室の準備③図書館・視聴覚機材等情報教育設備の充実が挙げられる。

8 参考文献

- ①徳井 輝雄 「総合学習よりみた、学力とその評価」 名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要 第38集 P5 (1993)
- ②名古屋大学教育学部附属中学3年生 卒業論文集「人について」 第一分冊、第二分冊 (1995)
- ③名古屋大学教育学部附属中学3年生 1994広島修学旅行研究集録「広島大久野島紀行」 (1994)

資料1 一学期の初めに生徒に配布したもの
1994年度中学3年 選択授業について

中3担任団

- 1 此の授業の目的
教科の枠にとらわれない総合的な学習を自主的に行う。
- 2 テーマについて
人について環境、人権、平和などの観点から学ぶ。
- 3 学習の予定
1学期 クラス毎に講義を受け「人」についてのいろいろな見方を知る。あわせて、広島修学旅行の事前学習とする。
2学期 広島・大久野島への旅行を通じて戦争によって人はどうなるかを知る。グループ毎に学習し結果を報告書にする。
3学期 ひとりひとりテーマを見つけ卒業論文を書く。「人」に関することならどんなテーマを選んでもよい。
以下略

資料2

- 1994年度1学期の授業一覧 (B組を例に)
- 4月8日 (合同ホームルーム) 選択授業の説明をする。目的、テーマ、一年間の予定、
 - 4月12日 人の命を脅かすもの～戦争について、
～ダイオキシシン～ 徳井
 - 19日 同上～公害について、水質汚染～徳井
 - 26日 同上～核エネルギーの利用、放射線～徳井
 - 5月10日 生物の宇宙における位置、人の生物におけ

- る位置 その1 鈴木一
 17日 同上 その2 鈴木一
 31日 同上 その3 鈴木一
 6月7日 エイズと共に生きる その1 中村
 14日 同上 その2 中村
 6月28日 人種差別～先住民族アイヌについて～ 高比良
 7月5日 同上～アメリカインディアンについて～ 高比良
 12日 まとめのレポートを書く (まとめの為の指針を示す) 担任団
 19日 同上 担任団

資料3

- 1994年度2学期授業一覧
 ～広島修学旅行の事前事後学習～
 9月13日 広島でのグループワークのテーマを班毎に決める
 20日 旅行のしおりの原稿を書く
 10月4日 同上
 11日 事前学習の結果発表 司会 旅行委員
 18日 同上 司会 旅行委員
 25日 旅行委員会からの説明会
 11月1日 旅行でお世話になった人達へのお礼の手紙をかく
 8日 旅行報告集の制作準備 グループで
 15日 同上
 29日 同上
 12月13日 同上 原稿締切

資料4

- 3学期の初めに生徒に配布したもの
 1994年度 中3 選択授業

3学期の予定

～卒業論文を作る～ 中3担任団

- 1 此の授業の目的 (再録)
 教科の枠にとらわれない総合的な学習を自主的に
 行う。
- 2 テーマについて (再録)
 人について環境、人権、平和などの観点から学
 ぶ。
- 3 3学期の目標
 1学期には人についてのいろいろな見方を知りま
 した。2学期には、広島・大久野島への修学旅行
 で、戦争で人はどうなるかを体験者の方々から直
 接お聞きすることができました。また、素晴らしい
 報告集を作ることが出来ました。3学期では、
 まずこれらの学習成果を2年生に伝えて下さい。
 次にこれまでの学習を受けて、人についての様々

な問題の中から興味あるテーマを自分で選び、
 (もう夏休みにテーマを決めている人はそれで結
 構です。)更に深く調査研究し、論文をまとめあ
 げて下さい。

担任団の4人の先生が手分けして皆さんの色々な
 相談にのります。

4 日程

- 1月10日 修学旅行の研究結果の発表準備
 17日 同上
 24日 同上
 31日 卒業論文の為の自学自習
 2月6日 (月) 5・6限 修学旅行研究結果発表会
 2年生も参加
 2月7日 卒業論文の為の自学自習
 14日 同上
 21日 同上
 28日 原稿締切
 3月7日 卒業論文の発表会 (数人)
 注: 3月7日は、実際は卒論の原稿を仕上げることに
 使われた。発表会は出来ず。

資料5

- 卒論のテーマ一覧表
 音楽と人間
 THE WORLD RELIGIONS
 ヒトというものさしで世界をみること
 日本の古武道
 今地球に何がおきているのか
 人間と地球
 世界の旅とロマン
 恐ろしい～教育制度と中学生～
 人と人形からくりについて
 大山 倍達
 進化と人類
 あぶない葉と人
 音楽について
 ゴジラとヒト
 食汚染について
 戦争と自衛隊と日本～戦争から日本の今と
 自衛隊を考える～
 BEATLES から見る人生観
 人とスポーツ
 私の太平洋戦争
 Human & Music
 言葉について
 共生
 SPORTS
 「動物愛護」とは何か
 南北問題～日本とアジア～

絶滅動物
地球環境について
地震による人の心の移り変わり
「人とドラッグ」について
アニメについて
限りある人生 私たちはどう生きるべきか
映画について
お〜すとらりあ流「えちけっと」
ネコとヒト
沖縄戦～沖縄での悲劇・集団自決～
音楽の歴史と音楽家たち
金と私
脳と心
エイズ危機
学校教育と現代社会
人類と戦争
男と女
今「ゴミ」が危ない
癌 その原因と治療
AIDS
シーレーン防衛
今「水」が危ない
子供の危機
ALEXANDOROSⅢ
GENPATU 原発
人と自動車
極真空手
病気について
人と資源
人と死について
オーストラリア 先住民アボリジニ
〈キューハ難民米国へ〉
障害者と社会
宗教・人・考え方
世界の人々の食生活
生きる意味について
人間と夢
家族
教育とは何か
人について「エイズ」
死
Auschwitz アウシュビッツ
二酸化炭素
自己本位主義による社会学
ボランティアについて
アクセサリについて
宮崎 駿 について
痛

たばこの害

資料6

中3 選択授業に関するアンケート調査結果
1995.3.18.調査
対象 1994年度中3年生71名

この1年間の選択授業の時間での授業や活動を省みて
次の質問に答えて下さい。

- 1 一学期の4人の先生による授業は、面白かったでしょうか(○を打つ)
11人①とても面白かった ()
25 ②どちらかといえば面白かった
19 ③どちらでもない
15 ④どちらかといえばつまらなかった
1 ⑤とてもつまらなかった
- 2 二学期の修学旅行の事前学習は積極的に取り組みましたか
20 ①積極的に取り組む事が出来た
26 ②どちらかといえば積極的に取り組む事が出来た
10 ③どちらでもない
04 ④どちらかといえば消極的であった
01 ⑤とても消極的であった
- 3 二学期と三学期の、修学旅行の事後学習は積極的に取り組みましたか
17 ①積極的に取り組む事が出来た
29 ②どちらかといえば積極的に取り組む事が出来た
15 ③どちらでもない
09 ④どちらかといえば消極的であった
00 ⑤とても消極的であった
- 4 卒業論文に積極的に取り組みましたか
40 ①積極的に取り組む事が出来た
14 ②どちらかといえば積極的に取り組む事が出来た ()
11 ③どちらでもない
05 ④どちらかといえば消極的であった
01 ⑤とても消極的であった
- 5 選択の時間は1年間を通じてどうでしたか
15 ①とても楽しかった
24 ②どちらかといえば楽しかった
22 ③普通
08 ④どちらかといえばつまらなかった
02 ⑤とてもつまらなかった
- 6 選択の授業は、他の授業と比べ、興味が持てまし

- たか
- 20 ①とても持てた
- 26 ②どちらかといえば持てた
- 18 ③どちらでもない
- 05 ④どちらかといえば持てなかった
- 02 ⑤全く持てなかった
- 7 選択の授業は、他の授業に比べ、どんな点が長所だと思いますか (いくつか列挙して下さい)
- 普通の授業では得られないことを学んだ 12人
 - 教科書や教科にとらわれない自由な学習 9人
 - 4人の先生のいろいろな話が聞ける 8人
 - 自学自習が出来る 7人
 - 幅広い学習が出来る 7人
 - テストが無く、気楽である 7人
 - 特に無い 6人
 - 専門的で深い学習が出来る 5人
 - 自分でテーマを選ぶことが出来る 5人
 - 先生の違った面が分かる 3人
 - テストが無いので、覚える学習ではなく考える学習が出来る
 - 受験の為ではない勉強が出来る
 - 本が読める
- 8 選択の授業は、他の授業と比べ、どんな点が短所だと思いますか (いくつか列挙して下さい)
- 興味の無いテーマの時は遊んでしまう子が出る 11人
 - 騒がしい 6人
 - 時間が少ない 4人
 - 時間をかけすぎ、かかりすぎ 3人
 - 普通の勉強を圧迫する 3人
 - 特に無い 5人
 - 教科を越えていない
 - 選択授業に成っていない、テーマを生徒に選ばせていない
 - こういう勉強の意味が分からない者がでる
 - 正規の授業が遅れる
 - 感想文を書かされ過ぎた
- 9 テーマ「人について」をどう思いますか
- 16人①とても良い
- 04 ②どちらかといえば良い
- 13 ③どちらでもない
- 01 ④どちらかといえば良くない
- 02 ⑤全く良くない
- 10 (上の9で①と②を選んだ人に) どんな点が良いのですか
- 人間の立場や、自分の生きている時代が分かる 8人
- 幅広い内容 5人
- 自分が人間だから人間のことを学ぶのはよい
- 自分を見直す
- 身近な問題
- 11 (上の9で④と⑤を選んだ人に) どんな点が良くないのですか
- 先生がテーマを決めず自分達で決めたい 2人
- テーマが大き過ぎる
- 12 一年間の選択の授業で、一番印象に残っていることはどんな事ですか
- 修学旅行の事前事後学習や発表したこと 24人
- 卒論を書いたこと 23人
- エイズの授業 5人
- 班学習 4人
- 何もない 4人
- 人間のルーツ 3人
- 13 「人について」どんな事を学んだと思っていますか
- 人間の神秘さや不可解さ 6人
- 色々沢山 4人
- 命の大切さ 3人
- 差別の非人間性 3人
- 人間は助け合う必要がある 2人
- 地球の生き物が残るも滅亡するも人間次第 2人
- 人間を取り巻く環境問題 2人
- 平和な社会 2人
- 14 高校へ行ってもこの様な形式の授業を受けたいと思いますか
- 14人①とても受けたい
- 27 ②どちらかといえば受けたい
- 16 ③どちらでもない
- 09 ④どちらかといえば受けたくない
- 04 ⑤全く受けたくない (理由：受験に関係無い)
- 01 無回答

資料7

一学期の人種差別に関する高比良先生の授業シラハス

テーマ 人種差別

1 世界各国における先住民族問題 1993年 国連の「世界先住民族年」

カナダ

オーストラリア.....

フィンランド.....

イギリス.....

アメリカ.....

日本.....

2 日本国内の人種差別

a 先住民問題

b ニューカマー、オールドカマー

c 重症身体障害者

d その他

3 日本国内の先住民アイヌ問題について

a 歴史的背景

アイヌモシリ 現在の()・樺太・()で、アイヌの住む大地という意味

..... () 政府が領土にしてしまった

広大な森林地帯は()・()・御料材にされる

..... 主食のエゾシカがとれない
..... 木の伐採も認められず

1994. 6. 7

日本の敗戦直後アイヌ共和国として独立の可能性もあった

→なぜそうならなかったのか？

b 現状

オーストラリアのアボリジニとの差

オーストラリアはイギリスをはじめとするヨーロッパ人（白い悪魔）の侵略

侵略 ☞ （ ）・強姦・（ ）

→アボリジニは先住民の領土として公認の地域がある

日本のアイヌは無視されている

アイヌの人口密度が最も高い二風谷にふたにに巨大ダム建設の計画 → 開発？

開発問題とは ☞ （たとえば広葉樹の乱伐、針葉樹の人口林化）

→アイヌの農地が水没

山は国有林・社有林、川は建設省・漁協にとられてしまったのに

c 日本の真の国際化

国際化とは ☞ 英語会話をはじめとするアメリカへの文化的従属化、周辺アジア諸国への経済優位をカサにきた傲慢な態度！？

・侵略戦争の犯罪を自ら裁かなかった（戦勝国側の一方的裁判）☞ 侵略の反省をしてはいない ☞ 日本的反国際性

・オーストラリア空軍の無抵抗で漂流中の日本人兵（350人）銃撃事件

→ 戦犯に問われるかもしれない

→ 対外的反国際化

アイヌ民族問題（権利の100パーセント無視）→ 国内版反国際化

テーマ 人種差別

アメリカ先住民民族インディアン

1 合衆国人口の人種・民族構成

人種・民族	1980年		1970年				
	人口数	%	人口数	%			
白人	188,371,622	83.2	177,748,975	87.5			
黒人	26,495,025	11.7	22,580,289	11.1			
アメリカ・インディアン	1,364,033	0.63	792,730	0.39			
エスキモー	42,162						
アリュート	14,205						
中国系	806,040				0.36	435,062	0.21
フィリピン系	774,652				0.34	343,060	0.17
日本系	700,974	0.31	591,290	0.29			
その他	* 7,977,392	3.52	721,520	0.35			
計	226,545,805	100.00	203,212,926	100.00			

民族	人口数 1980年
韓国系	354,593
東インド系	361,531
ヴェトナム系	261,729
ハワイ人	166,814
グアム人	32,158
サモア人	41,948
その他	6,758,319
計	7,977,392

2 コロンブスによるアメリカ大陸の「発見」 1492

サンサルバドル島

インディアンは2万年前から ☞ 「発見」という表現はヨーロッパを中心とするひとつの見方
(その当時は南北大陸に1500万人のインディアン)

3 ヨーロッパ諸国の征服・支配

スペイン

武力による征服

金・銀鉱山の採掘

大農園の農作業

による酷使 → 反乱の鎮圧

→ 宗教裁判 → 死

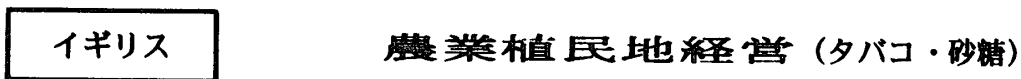
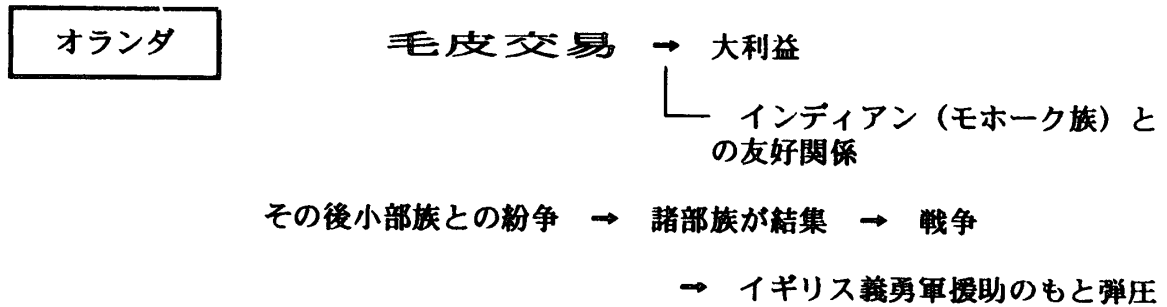
フランス

毛皮交易 (五大湖地方を中心)

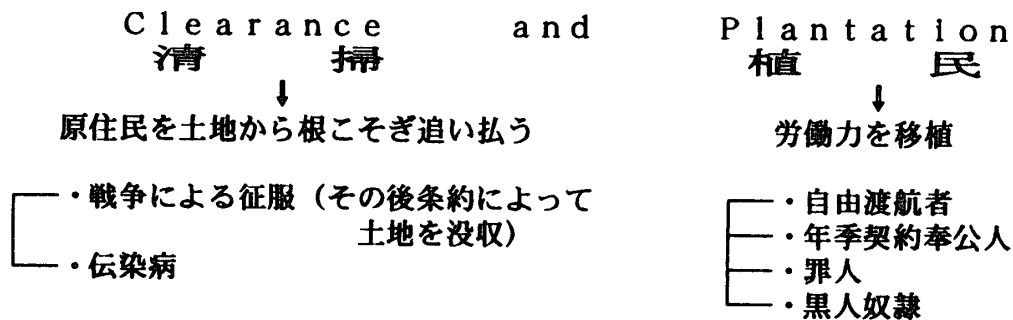
最初は部族 (アルゴンキン系) を抱擁

→ その後農業植民地の建設をめざし圧殺の方向へ

1994. 7. 5



アイルランドと同様に



スペインの一時大量虐殺 ┌
 イギリスの清掃と植民 ─┘ どちらが残酷か？

4 合衆国の対応

基本的にイギリス方式をひきつぎ、大陸規模で展開

アメリカ独立戦争 → パリ講和条約 (1783) をもって締結
 (イギリスからアメリカに広大な地域を譲渡)

インディアン強制移住法 (1830) → ミシシッピ川の西方の土地に強制移住
 (諸部族と個別に折衝して強制移住を具体的に推し進める権限を大統領に与えた)